



四万十町
町内「ぶら〜り」散策

影かげ 野の



その昔は「陰野」と書いた。床鍋と下呉地の間にあり、現在は105世帯、201人が住む。

窪川の町から国道56号を久礼に向かって走る。高知道・四万十町東の出入り口の少し手前に、活禅寺窪川別院という禅寺がある。その隣に倒木防止の支柱に守られた、立派な橋の大木がある。樹齢300年以上というこの橋には「お雪橋」という名がついている。

江戸時代の初め、陰野村の新田開拓に尽力し、この地の地頭職的立場にあつた池内嘉左衛門という人がいた。嘉左衛門には「お雪」という、それはそれは美しい娘がいた。このお雪が恋をした。相手は、村にあつた西本寺といはいほんじ(西方寺)さいほうじという記述もある)の若い僧侶で「順安」じゅんあん」といった。当時は、僧侶に課せられた戒律は厳格で、妻帯は禁じられていたため、お雪と順安の恋は実らぬ恋となる運命にあつた。誰もがそう思っていた。しかし、お雪の父・嘉左衛門は、どうやら「話の分かる柔軟な男」であつたらしい。なんと嘉左衛門は、この恋を禁じるのではなく、成就させるために、順安に僧侶をやめ(還俗「げんそく」)させて、自分の跡取りにすることを決断したのであつた。

還俗した順安は、二代目・嘉左衛門を襲名し、二人は晴れて夫婦となつた。悲恋になりかけた恋から一転、ハッピーエンドとなつた夫婦は、この地で仲睦まじく暮らしたという。また、二



お雪橋。恋の成就祈願にご利益があるかもしれませんよ

人とも、父である初代・嘉左衛門の仕事に忠実に継承し、更なる新田開拓に励んだ。村人からの信頼も厚く、夫婦揃って愛された。彼らには子どもがなかったため、夫婦の没後、村人たちが供養につとめた。村人たちは、生前お雪が好きだつた橋の木を、二人のお墓の隣に植樹した。それがこの「お雪橋」である。

さて、西本寺は明治の廃仏希釈によつて廃寺となる。しかし、後年、地域住民によつて「延命地蔵」という名で再興された。この延命地蔵には、西本寺の時代から安置されていた仏像があるのだが、残念なことに黒こげになつてしまつている。はっきりとした記録が残っていないため、年代は不明であるが、おそらく火災に見舞われたものと考えられる。現在の延命地蔵のお堂に残されている棟札に、辛うじて「火災」と読める文字が残っているだけである。延命地蔵のお堂の裏手一帯には「金明竹」が群生している。

町のうごき	(6月30日)				出生 死亡 転入 転出				適正值(mg/l) 7月14日		
	人口	前月比	男	女	男	女	計	計	リン酸	硝酸	
	8,211	-7	7	9	10	15			≤ 1.0	測定範囲以下	
	9,148	-14	1	12	11	14			≤ 0.5	1.457	
	17,359	-21	8	21	21	29			アンモニウム	≤ 5.0 測定範囲以下	
	世帯数	8,570	-12	(6月中の届出)						アニオン活性剤	≤ 1.0 0.10
	窪川地域	12,272人	大正地域	2,435人	十和地域	2,652人			化学的酸素要求量	≤ 10.0 測定範囲以下	

四万十川の
水質状況

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2018.8月号
Vol.149 (毎月10日発行)

●発行/四万十町企画課 ●印刷/窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎(0880) 22-3124

FAX(0880) 22-3123



本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。